

声の届くあたりで食べものめぐり 「ここ」を楽しむことが「ここ」を生きる力をつくる

水俣市生涯学習課長・食の応援団員 吉本哲郎

いつのころからだろう。食卓がなくなり、つくる料理がなくなり、子どもたちにも伝わらなくなっている。どこの都会でも家庭料理がなくなりつつある。節約されたお金のせいで、危機である。倒れた家族で家族の

こんなうまいもの みんなに食べさせたい

九月十一日だった。水俣で「食の生活文化祭」が県民文化祭のプレイベントで開かれ、水俣の海、山、川があらわに。家庭料理を食べることになった。朝集まり、五つのコースに分かれて出発。海側の方では網元である杉本雄さん、栄子さんの漁師の食卓を三〇名が開いた。シロゴ(シラス干し)、ガラ

秋の海、山、川は 食べもののデパート

一方、山側の開拓の村、海抜五五〇mの石飛集落で天野家の「家族料理」である。昨年もここで食べさせてもらった。そのときのことを息子の天野浩くんは語る。

ずらりと並んだ料理 作った本人たちがまず感動

華北町では古石の有吉さん宅で開かれた。尚美さんは語ってくれた。「村の人たちと呼びかけた。そしたら、一六軒の人たちが四二種類も自分でつくって持ってきてくれた。料理した人たちは並べたのを見て感動して並べたのよ。あれはその場に居たものには分からない感動だった。近所のおばさんたちが感動したっていうのがよかったです。今回のことは、村の人たちが感動している。スタップがね、お客さんが来る前にぐるぐる回って味を見ていた。あはは。取材に来た人も料理を見て、「干円揉んで食べさせてください」といって来てた。おこね、ニワトリのしゅうい(汁)、そば切り、コンニャクの刺身、ガネ揚げ、竹の子の刺身、砂ずり、物、おから入りコロッケ、ナスとオクラの味噌炒め、ニガゴリとナスの味噌炒め、ゴマ豆腐、竹の子のきんぴら、猪肉、シヨウガの佃煮、大豆の佃煮、ゴボウの佃煮、大豆の天ぷら、古

住んでいる「ここ」を楽しむことが 自分たちを元気にする

感無量である。水俣病の件で敬遠された水俣がその後、「水、ごみ、食べもの」では世界どこよりも気を付けてきた。そのことが当たり前のようにならなれた。それが感動できる。三十数年ぶりにあった同級生が「よそに就職していろいろあるけど、今は水俣出身と胸を張っていえるようになったぞ」と言ってくれた。不可能のように思っていた水俣の再生がやれたことがうれし。



袋地区の杉本家の加工場で海の幸をいただく

「あるものでつくったら、意外と種類ができてびっくりした。野菜モノは俺、お菓子とパン、おやつは妹の美咲、山と川からとってきたのは親父がつくった。畑と相談してつくった。そして三〇種類もできてびっくりした。「白あんのお茶おはぎは、出したらすくなくなつた。びつくりした。家族は誰も食べられなかった。お客もみんなは食べてない!」「食べたかったなあ」

塩焼き、南瓜サラダ、冬瓜のリゾット、お茶殻とシラゴのおひたし、冬瓜のスープレ、中華風手打ち蕎麦、ノビルのぐるぐる、ミヨウガの長崎揚げ、ワサビの葉とチーズのかき揚げ、かまどで炊いたご飯、お茶の葉のてんぷら、ミヨウガの胡麻和え、栗おこね、たくあん、小松菜の浅漬、ピーマンと唐辛子の佃煮、大豆の五目煮、など、今年は二八種類だった。



石飛地区の天野家の離れで山と川の幸をいただく

日本の食生活全集

全50巻・都道府県別編集 A5判・上製、平均350頁、カラー1000枚
付 ●各2900円、揃い145000円
その地の自然と暮らしの積み重ねに育まれた「食生活」のありよう。今、失われつつあるその本来の姿を、各地の古きからの地道な「聞き書」と再現写真で記録した壮大な食の民俗誌。



●日本の庶民の食の原形を記録：昭和初期頃の、戦争による混乱、戦後の洋風化を経る以前の食生活の記録
●各都道府県別編集：「聞き書」岩手の「食生活」聞き書、京都の「食生活」といったタイトルで1冊1冊にまとめ、「アイヌの食生活」、索引2巻を加え全50巻とした。
●取材対象者が高齢のため、最初に最後の企画：全国五千人から聞き取りした世界にも例のない記録。
●四季折々、朝昼晩の献立、晴れ食、行事食、薬効のある食べ物、救急食まで細かに記録。

本全集の初回配本

聞き書 岩手の食生活
作家・富岡多恵子氏が、「ものを食べて」生きる事実を文学的感動をおぼえる、と激賞。

農文協 日本の食文化に関する 質量とも最大のデータベース

CD-ROM版



Windows版
●120000円
全50巻分の全データを収録。カラー写真12000枚。全国すし比べ、雑煮比べ、各都道府県ごとの食生活研究など、多彩な検索機能で思いどおりに実現。画期的な食文化データベース。

各界からの反響

住井 幸夫 「日本の食生活全集」は文化の黄金(きん)脈を掘りあてた。私は言いたい。人々はそこにはじめて日本の歴史の真の姿を見るだろう。沢村貞子 二十二年あまりのこの研究のあとを私は大切にとどめていこう。健康やかに生き、暮しを楽しむために。
井上ひさし 日本文化、日本人のいのちがかたちを変えた大百科という感じがすね。
中島 祥 「日本の食生活全集」はなかなか衝撃的なドラマをはらんでいる。
石毛直道 明治以前から連続と続いてきた日本人の食生活に関する質量とも最大の記録集。
色川大吉 多くの学問分野で、他に類のない価値ある仕事となろう。